

「足部の難治性潰瘍に対し手術を施行した患者を対象とした、創傷治癒遅延や下肢切断に至る要因についての検討」に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2020年5月20日～2021年3月31日

〔研究課題〕 足部の難治性潰瘍に対し手術を施行した患者を対象とした、創傷治癒遅延や下肢切断に至る要因についての検討

〔研究目的・研究意義〕

帝京大学医学部では、難治性潰瘍患者に対し、四肢の温存を目指したチーム医療を行っています。しかし、下肢切断を要する患者さんもいらっしゃいます。創部が治癒しない要因については、血流のほか、栄養不良（malnutrition）、糖尿病、低アルブミン血症などが考えられています。創部の血流については治癒する可能性の高い具体的な数値（ABI）が明らかになっていますが、その他の要因についても具体的な数値を確定されることが望ましいと考えられます。創傷治癒を阻害する因子と、その具体的な数値を検討いたします。下肢切断を要しやすい因子が判明すれば、潰瘍を生じる傾向のある疾患を有する患者さん（糖尿病、末梢動脈疾患など）に対し、その因子を改善できる可能性があります。その結果として下肢切断を減少させると考えられます。

さらに、下肢切断を行った場合でも創部の治癒に至らず、縫合不全や創部の壊死を生じ、再手術が必要になる患者さんもいらっしゃるため下肢切断術後に再手術を要する因子についても検討いたします。それにより再手術が必要になるリスクについて具体的な数値が得られ、それが改善可能な要因であれば術前に改善できると考えられます。

〔対象・研究方法〕

2009年5月から2019年12月までの間に、足潰瘍で手術を施行した患者さんを対象とします。既存のカルテ上にある情報（年齢、性別、採血データ、身長、体重等）を利用して研究を行います。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院 形成外科

〔個人情報の取り扱い〕

データは個人が特定されないよう匿名化して扱います。研究成果は取りまとめて学会等で発表します。その際に例として提示する画像は、匿名化して個人が特定されないようにいたします。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：福場美千子 助教

所属：帝京大学医学部形成・口腔顎顔面外科学講座

住所：板橋区加賀2-11-1 TEL：03-3964-1211（代表）〔内線 7323〕